資料4－３

阿武隈川上流遊水地群地内利活用検討会　第３回検討会

阿武隈川緊急治水対策プロジェクトの変更

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト(国:阿武隈川上流)の変更

■令和元年台風19号に伴う洪水規模への対応として、流域の関係機関が連携し実施するハード・ソフト対策（阿武隈川緊急治水対策プロジェクト）のうち、国が実施する改良復旧事業（大規模災害関連事業）の計画を変更しました（令和７年９月変更）。

※事業費と事業期間については、今後の改良復旧工事の進捗に伴う現場条件の変更等により検討・見直しが生じる可能性があります

■全体事業費 ~~約1，866億円~~ ⇒ 約2，667億円

■事業種別

○改良復旧事業

国:阿武隈川上流(福島県内)

全体事業費 ~~約999億円~~ ⇒ 約1，800億円

事業期間 令和元年度～~~令和10年度~~ ⇒ 令和15年度

国:阿武隈川下流(宮城県内)

全体事業費 約241億円

事業期間 令和元年度～令和7年度

福島県: 約 66億円

宮城県: 約 18億円

○災害復旧事業

国:阿武隈川上流(福島県内)

全体事業費 約130億円

事業期間 令和元年度～令和2年度

国:阿武隈川下流(宮城県内)

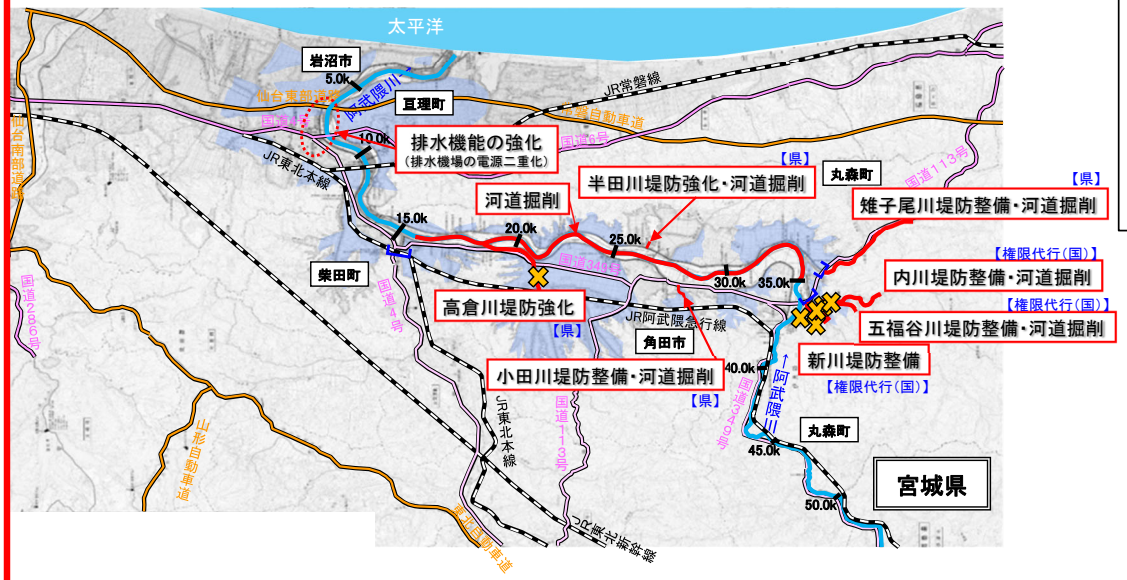
全体事業費 約 99億円

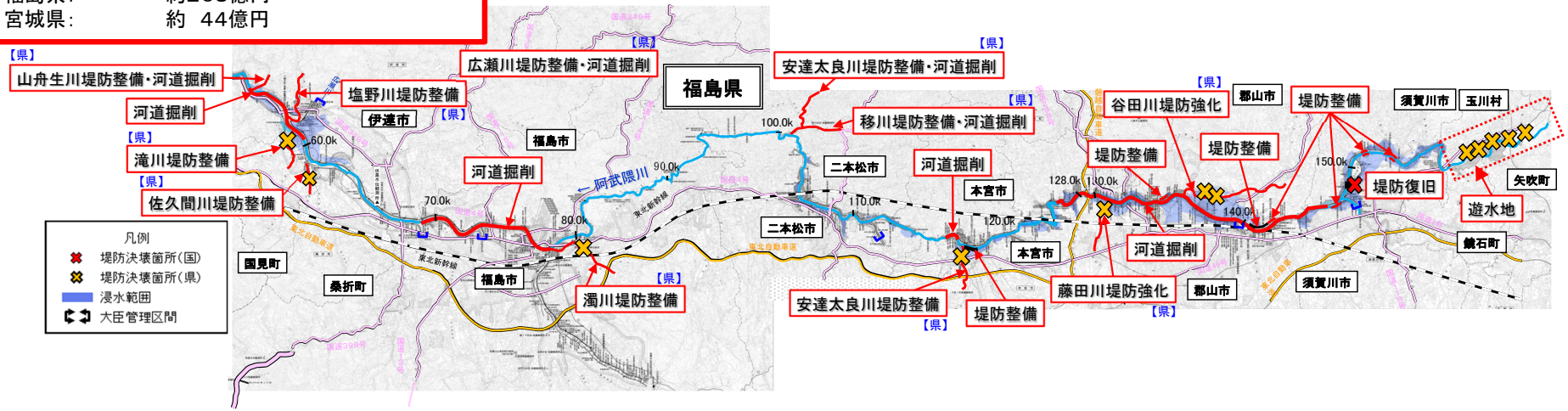
事業期間 令和元年度～令和2年度

福島県: 約268億円

宮城県: 約 44億円







阿武隈川緊急治水対策プロジェクト(国:阿武隈川上流)の変更概要

■阿武隈川では令和元年東日本台風（R1.10）による甚大な洪水被害を受け、同規模の洪水に対し堤防からの越水を回避させることを目標に令和2年1月に大規模災害関連事業が採択されました。

■引き続き、遊水地整備等の改良復旧を進めるとともに、物価高等の社会的要因のほか、詳細調査により発生した課題等に対応するため、事業期間を延長し、必要な予算を確保しながら事業を推進してまいります。

■全体事業費

増額　約８０１億円

変更事業費　約１，８００億円 ※工事諸費含む

当初事業費　約　９９９億円 ※工事諸費含む

■事業期間

期間　５年延長

変更　令和元年度～令和　１５年度

当初　令和元年度～令和　１０年度

＜変更内容＞

〇物価上昇・働き方改革等による増・・・・・・・・・・・・・ 増 約２４１億円

〇調査等の進捗に伴う課題等の対応による増・・・・・・・・ 増 約６０３億円

〇コスト縮減（発生土処理の見直し）・・・・・・・・・・・・ 減 約　４３億円

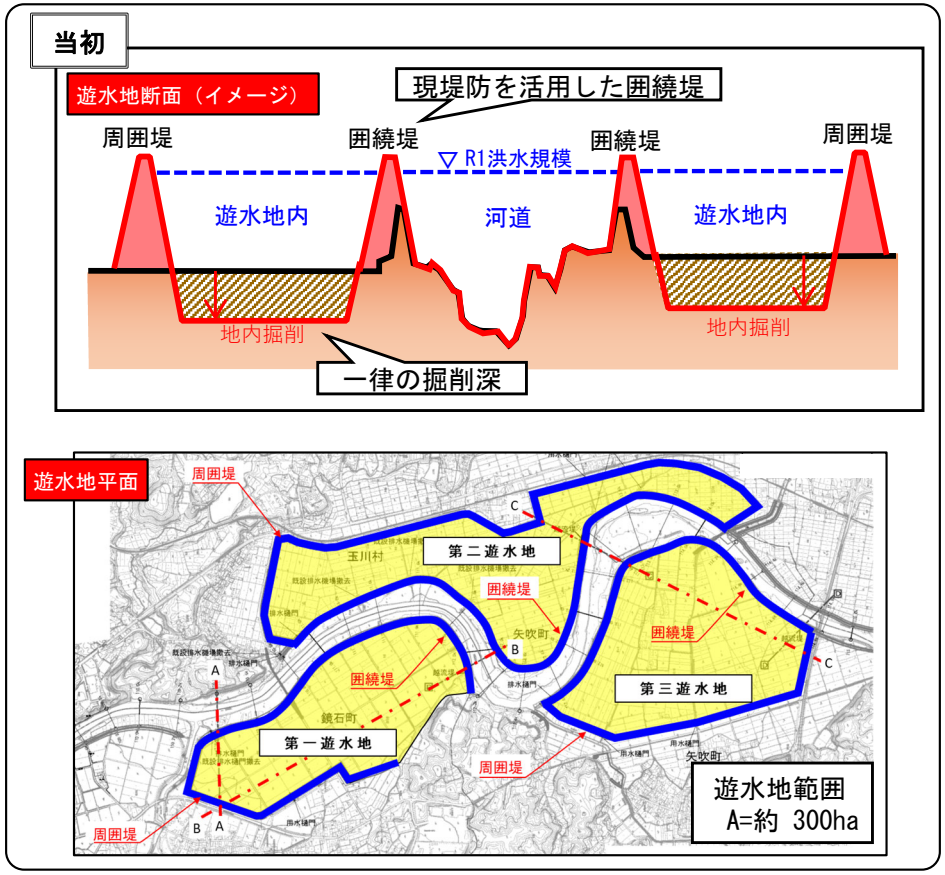
調査等の進捗に伴う課題等の対応による増　＜増　約603億円＞

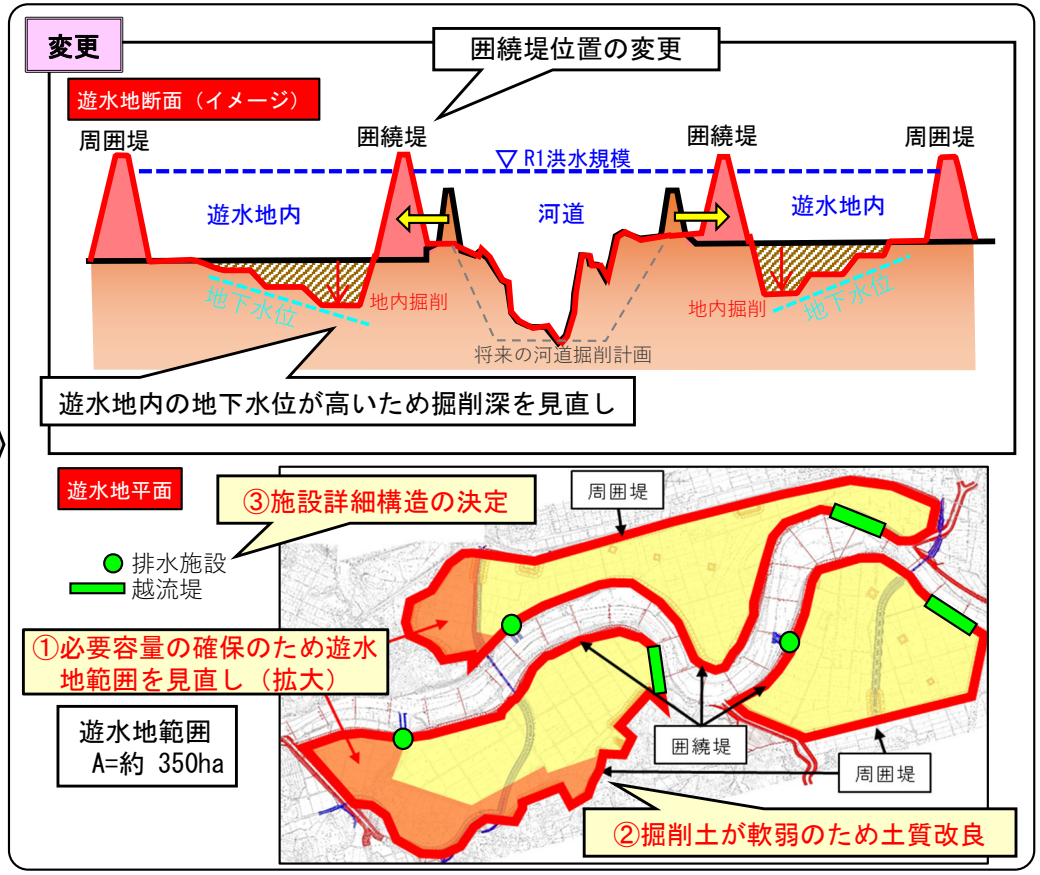
（主な変更内容）

■遊水地に関する詳細調査により課題が発生したことから、その対応に必要な遊水地計画の見直しを行いました。

・遊水地内の地下水が高いため掘削深の見直しが必要
・河道の流下能力確保のために囲繞堤位置の変更が必要
　→ ①遊水地範囲を拡大することで、必要な遊水地容量を確保しました

・遊水地内の掘削土が軟弱であり、盛土材として使用不可 → ②土質改良することで、築堤等の盛土材を確保しました
・詳細調査やその対応により設計条件の変更が発生 → ③詳細調査等を踏まえた見直しにより、施設詳細構造を決定しました





※ 今回の事業計画の変更では、遊水地の予算措置上の事業範囲をこれまで住民説明会等で提示してきた実際の事業範囲に整合させるための調整を行いました。
※ これによる現地の事業範囲に変更（拡大等）はございません。

コスト縮減(発生土処理の見直し)＜減　約43億円＞

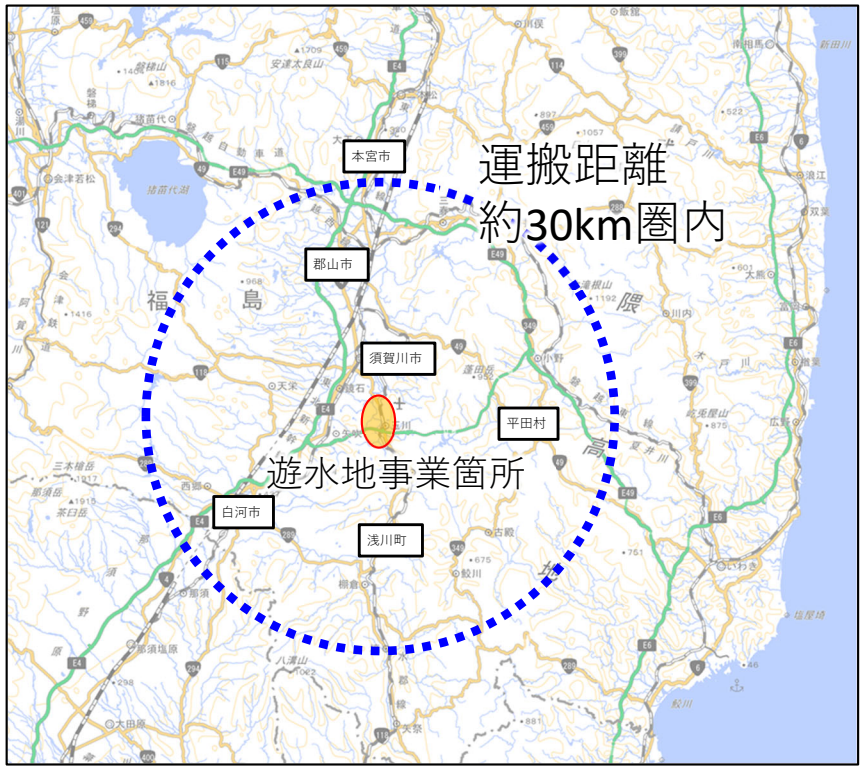
（主な変更内容）

■遊水地内の地下水分布調査の結果から掘削形状が見直され、掘削土量が減少しました。
（掘削土量　V=約820万m3　→　V=約570万m3）

■遊水地内の掘削土砂のうち、囲繞堤・周囲堤の築堤へ活用した後の残土処理については、福島空港用地内での受け入れが可能となったことから、運搬距離が減少しました。　（運搬距離　約30km　→　約10km）

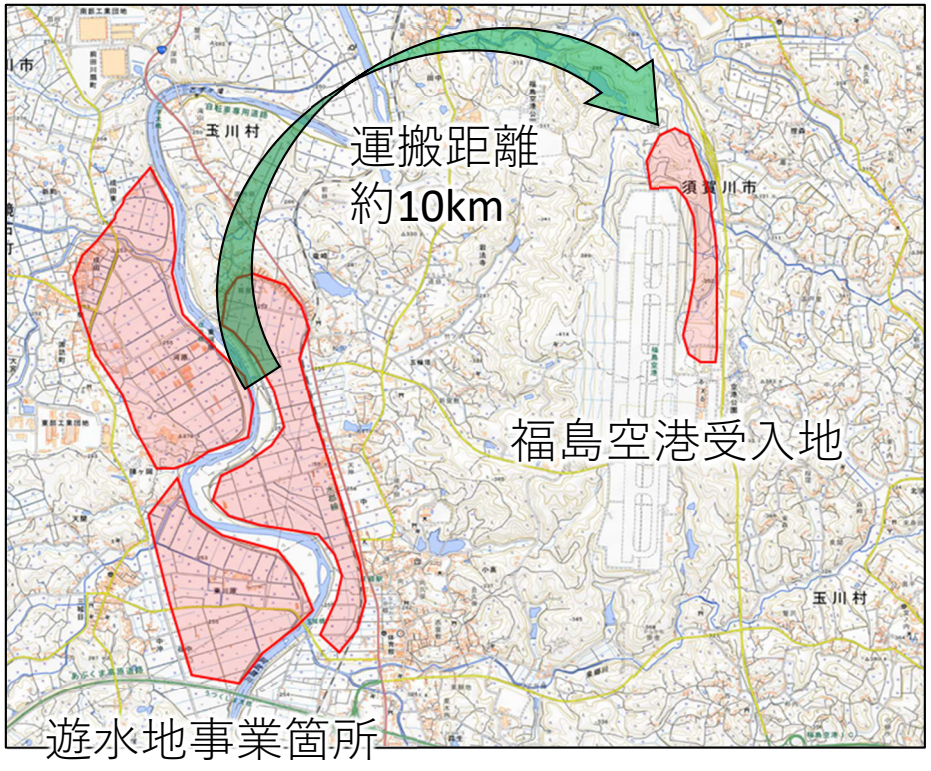
当初

・掘削量　　V= 約820万m3
・運搬距離 L= 約 30km



変更

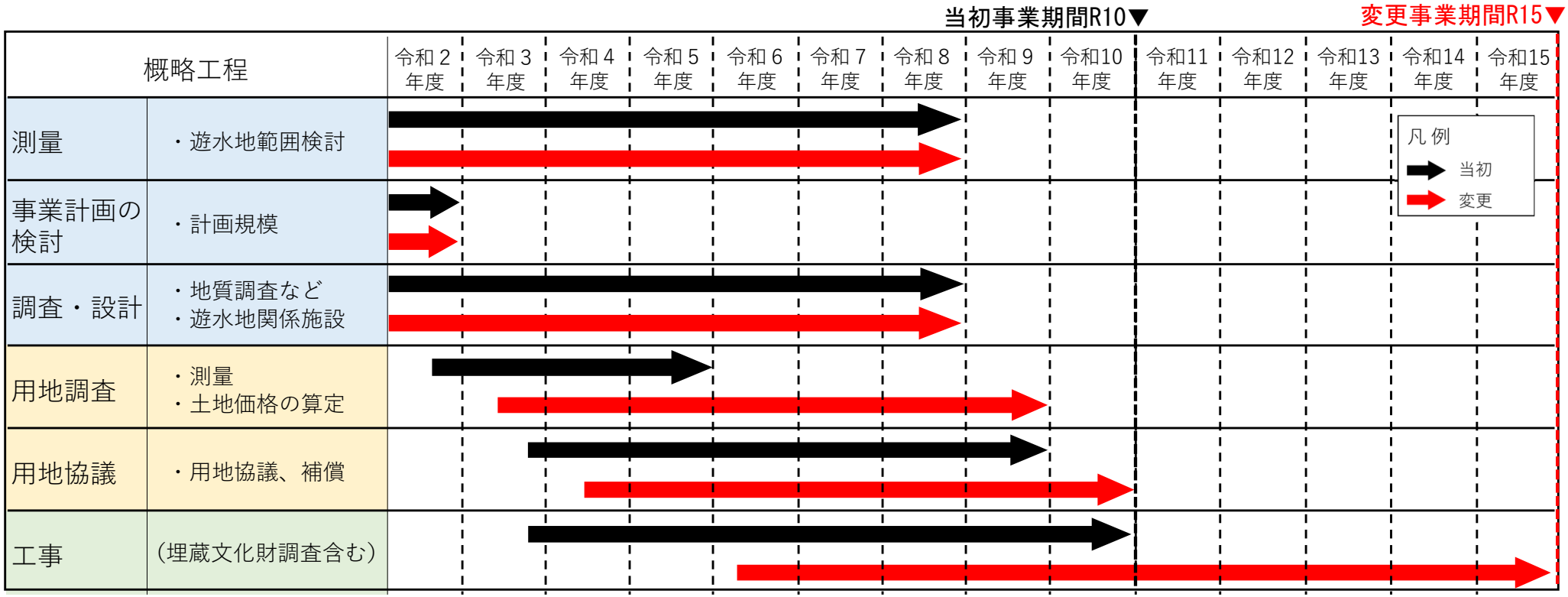
・掘削量　　V= 約570万m3　※築堤材料等事業内で使用する土量を除く
・運搬距離 L= 約 10km



事業期間の変更(5年延長)＜令和元年度～令和10年度→令和15年度＞

■働き方改革等による社会的要因のほか、遊水地範囲の拡大など詳細調査等により判明した課題への対応が必要であることから、事業期間を5年延長します。

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト（上流遊水地群整備）　概略工程



注）上記プロジェクト工程については、今後の調査状況等により変更する可能性があります。